いいやまの旬

このコーナーは市内の「今、ここが見どころ!!」を紹介するコーナーです。新幹線で訪れた観光客や帰省されたご親類の方々にお伝えいただくのはもちろん、市民の皆さんにも、もう一度飯山の素晴らしいところに気づいていただく情報をお伝えしていきます。

第8回 先人たちから受け継がれた雪国の文化 冬支度

「高社山に3回雪が降ると里に降る」（※山名は各地域で親しまれている山に置き換えられる）という言い伝えがあるように、雪が降る時期を予測し、雪深いこの地で冬を越えるための準備を始めるのが11月中旬から12月初旬です。

かつては、薪などの焚き物を家の中に集める、萱や藁を使って家の周囲を囲う、融雪のためのタネを掘るなどの大仕事が行われていましたが、生活が便利になった現代では「冬支度」の様相も変わりました。しかし、一部地域や家庭ではいまだに懐かしい冬ならでは風景を目にすることができます。それは、先人たちから受け継がれてきた雪国の文化、地域の宝です。

◀かつてはこの時期、どのお宅の軒先でも目にすることができた、冬の保存食を作るための大根や柿を干した光景

お菜洗いもこの時期の風物詩です ▶

◀地域の伝統行事「道祖神」づくり。10月下旬から11月下旬頃までに行われる地区が多いようです

橋を管理する県が施した柏尾橋のよしず。冬の冷たい川の風から歩行者を守ります ▶

◀雪国の文化、そしてこれからの時季の地域の象徴でもある雪囲い。雪から樹木などを守るのはもちろんですが、見事に施された雪囲いからは、芸術性を感じることもできます

詳細は　庶務課秘書広報係　☎62-3111（内線337）までお問い合わせください。

わが家の人気者

髙橋 直太郎（なおたろう）くん

太田地区
2歳3か月
No.356

姉のゆめちゃん

お姉ちゃんと2人で動物ごっこをしたり、公園のアスレチックが好きでお弁当を持って半日ぐらい遊びに行きます。好きな食べ物は、くだもの、なっとう、マグロの刺身です。

やさしい性格の直太郎くんは人なつこくて、ひょうきんなところがあります。人の3倍は動きます。いつも元気に仲良く遊んでくれて将来が楽しみなわが家の自慢の姉弟です。（直人さん、祐子さんの長男）

このコーナーに出てみませんか?

「わが家の人気者」に登場していただける2～3歳ぐらいのお子さんとお母さんまたはお父さんを募集しています。市役所庶務課秘書広報係までご連絡を!（☎62-3111内線337）

美術館情報

収蔵作品による常設展示

現在、美術館では「正面はどっち!?」&「後ろ向きの人たち」というテーマで常設展示を開催中です。

長谷川青澄（日本画）、岩上隆静（水彩）、浦野吉人（洋画）、柴田長俊（日本画）など、市出身ゆかりの美術家の作品を展示しています。

【写真】木島山岸出身の美術家・小林起一（1936－2006）の作品（『和紙絵画』と『退化宴今生物語』）

【開　館】9:00～17:00（入館は16:30まで）
【休館日】毎週月曜日
【入館料】一般300円、市内の小中学生は無料
【問合先】飯山市美術館　☎62-1501

編集後記

戦没者・開拓殉難者慰霊追悼式典で遺族会女性部副部長の小林照子さんがお父さまが亡くなられた戦地で思われたことをメッセージとして発表された時、お父さまの無念と残された家族の切なさで胸が締めつけられる思いでした。▼岡山小学校の閉校記念音楽会では、在校の児童や保護者、先生たちが岡山小に送る、心の込もった演奏に胸が熱くなりました。▼小さい頃から「人前で涙を流すな」と育てられ、先生に怒られても、友達とケンカをしても、大嫌いな注射を打たれても泣くことをこらえた私ですが、歳をとったせいか明らかに涙もろくなり、取材中も目頭が熱くなりました。▼肉体的にそういったことはないようですが「歳をとると涙腺が弱くなる」という現象は歳を重ね、さまざまな経験を積むことで他者と共感できることが多くなることから起きる現象のようです。▼今回取材したさまざまな人々の思いを紙面を介して皆さんにお伝えできていれば嬉しいです。小野沢